

令和 6 年度第 1 回 北海道スポーツ推進審議会

会 議 錄

日時：令和 6 年（2024 年）5 月 20 日（月）10 時開会
場所：かでる 2・7 7 階 730 研修室

○ 開 会

【事務局（スポーツ振興課 松井課長）】

定刻となりました。ただいまから、令和6年度第1回北海道スポーツ推進審議会を開催いたします。私は、進行を務めます、北海道環境生活部スポーツ局スポーツ振興課長の松井でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

まず、開会にあたりまして、北海道環境生活部岡本スポーツ局長よりご挨拶申し上げます。

○ 挨 捶

【岡本スポーツ局長】

おはようございます。本年4月からスポーツ局長となりました岡本と申します。

どうぞよろしくお願ひいたします。本日は、大変お忙しいところ、審議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。

ご承知のとおり、本審議会は、知事の附属機関として、スポーツの推進に関する事項をご審議いただくために設置されたものでございまして、令和5年度は、11月に審議会委員の改選を行いまして、12月には、新体制での審議会を開催し、北海道スポーツ推進計画や、スポーツの取組事例、部活動の地域移行の状況などについて、ご報告させていただいたところでございます。

我々、スポーツ局の体制といたしましても、今年4月から、これまでのオリンピック・パラリンピック連携室を廃止する一方で、次世代アスリートの育成をはじめといたしました本道のスポーツ競技力の維持・向上と、誰もがスポーツを通じて、社会に参加できる共生社会の実現に向けて取り組んでいくことが重要であるとの考え方の下、障がい者スポーツ・競技力向上担当課長を新たに設置いたしまして、新たな体制でスタートしたところでございます。

本日は、令和6年度のスポーツ関連施策について、事務局から報告いたしますとともに、今年度のスポーツ表彰候補者の選考について、皆様にご審議いただく予定でございます。

今後とも、北海道のスポーツ振興に取り組んでまいりますので、委員の皆様におかれましては、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げ、簡単でございますが、開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局（スポーツ振興課 松井課長）】

当審議会につきましては、昨年11月に、委員の改選を行いまして、12月に開催したところでございますが、前回ご欠席の千葉委員が本日お見えになっておられますので、簡単に自己紹介を兼ねて一言ご発言をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

【千葉委員】

12月に出席できなくて大変申し訳なく思っております。ウィンタースポーツということで、スケート連盟の方からこの会議に出席させていただいております。千葉と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

残念ながら、札幌冬季オリンピックは、もうなくなってしまった状況になっておりますけど、北海道全体のスポーツの推進、ウィンタースポーツだけではなく、様々なスポーツが北海道の中で推進していくように、お役に立てればと思ってこの会議に出席させていただいておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局（スポーツ振興課 松井課長）】

続いて、事務局職員・オブザーバーをご紹介いたします。

（事務局及びオブザーバーの紹介）

それでは、北海道スポーツ推進審議会についてご説明いたします。当審議会は、スポーツ基本法第31条及び北海道スポーツ推進審議会条例によりまして、知事の諮問に応じ、スポーツの推進に関する重要事項を調査審議することを目的として設置されております。

北海道情報公開条例第26条により、本日の審議会は公開といたします。なお、同条ただし書により、会議を公開することが適当でないと認められるときはこの限りでないとの規定がございます。手続きにつきましては、附属機関の設置又は開催運営に関する基準第3第4号に基づきまして、会長等が会議に諮り取り扱いを決定するとございますので、後程ご審議いただくこととしております。

また、会議録につきましては、附属機関等の設置または開催及び運営に関する基準第3第3項第8号に基づきまして、非公開部分を除き、道のホームページで公開させていただきます。

続きまして、会議の成立についてご報告いたします。本日は9名の委員にご出席いただいております。全委員15名の2分の1以上の出席がありますので、規定に基づき、会議が成立していることをご報告いたします。

終了予定時刻は、概ね11時半を予定しております。よろしくお願ひいたします。

次に、資料の確認をいたします。配布漏れはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、これから議事の進行を生島会長にお願いいたします。よろしくお願ひします。

○議題

【生島会長】

改めまして、どうぞよろしくお願ひいたします。議事の進め方についてでございますが、お手元の次第に沿って、報告事項から審議事項までを順番にお諮りをいたします。

それぞれの議題について、事務局から説明を受けた後、委員各位からのご質問やご意見をお受けいたします。審議事項1、2及び3につきましては、質問終了後、採決を行います。

事務局から先ほど説明がございましたように、会議は公開となります。審議事項の1、2及び3については、候補者の個人情報を含んでおり、同条ただし書きにより非公開したいと思いますが、ご異議ございませんか。

(異議なしの声)

はい、ありがとうございます。それでは審議事項1、2及び3は非公開といたします。

只今、報道もしくは傍聴の方はいらっしゃいませんが、来られた場合については、報告事項2終了後、退出をお願いすることとなります。

それと今回の議題は、5件であります。審議事項については、内容の確認をするということで、議論をするということにはならないと思います。従って、報告事項の1、2について、皆様から広くスポーツに関連して、ご質問なり、ご意見を活発に言っていただければと思います。

それでは、まず、最初に報告事項でございます。報告事項1の「令和6年度スポーツ関連施策」について、事務局からご説明お願いします。

(報告事項)

1 令和6年度スポーツ関連施策について

【事務局】

スポーツ振興係長の大西と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

第3期北海道スポーツ推進計画においては、その推進状況について、毎年度、北海道スポーツ推進審議会に報告し、その意見等を踏まえて、計画の効果的な推進に努めることとしております。初めに資料1-1をご覧ください。こちらは、第3期北海道スポーツ推進計画の5つの基本方針に紐づく、令和6年度の関連施策を記載した資料の概要版となります。

資料上段の二重枠内に記載のとおり、令和6年度の関連施策予算は、27事業、61億3,200万円となります。このうち、環境生活部、スポーツ振興課で所管している事業の主なものを中段に記載しております。抜粋して紹介いたします。

1 スポーツ参画人口拡大とライフステージに応じたスポーツのあるくらしの充実の欄をご覧ください。スポーツをする・みる・ささえる促進事業、スポーツチャレンジ教室、コーチ・ペアレンツ講習会では、スポーツ観戦等に係る気運を醸成するため、本道ゆかりのスポーツ選手等を講師に迎えた体験型教室の開催や、保護者を対象とした講習会の開催等に取り組みます。

また、スポーツをする・みる・ささえる促進事業、スポーツに親しむ環境整備では、北海道スポーツ協会が実施する総合型地域スポーツクラブの創設や質的充実の促進等の取組に要する経費に支援することとしております。

次に1枚めくっていただき、資料1-2をご説明いたします。関連施策を整理した資料となります。各表右横の事業番号、ページは、資料1-3のスポーツ振興関連事業の概要と符合しております。また、各表1番右の担当部の欄には、道庁内の担当部を略称で記載しており、6ページ下に正式な部署名を表示しておりますので、後程ご確認願います。

最後に、資料1-3となります。資料1-1及び1-2の関連事業の概要の概要を担当部ごとに整理した資料となります。後程ご確認願います。説明は以上となります。

【生島会長】

はい、ありがとうございます。かなり広範囲にわたる内容でありますけれども、皆様から直接これに関して、もしくは、その周辺のことで、ご質問・ご意見ございますか。いかがでしょうか。

恐縮ですが、駒井先生、去年のインターハイの成果と今年度の事業展開について、ご発言いただけますでしょうか。

【駒井委員】

北海道高体連の駒井でございます。昨年度は、36年ぶりのインターハイ北海道大会ということで、関係の皆様にご協力いただきまして、ありがとうございました。

コロナ明けといいますか、コロナが5類に移行して、初めてのインターハイということで、普通に制限なく開催することができて、大変多くの観客の方、それから、応援される方、本道に足を運んでいただいて、全国高体連としても素晴らしい大会であったということでお褒めの言葉をいただいております。

私も幾つか回りましたけれども、本当に、とりあえず選手だけじゃなくて、この概要版にも、「する・みる・ささえる」ということが記載されていますけれども、そういう、スポーツを取り巻く周りの人達がスポーツと関わっていただいて、本当によい大会だったなど。学校の立場としましては、大会運営を支える高校生、プレーする高校生だけでなく、大会運営を手伝う高校生が本当に気持ちよく一生懸命動いてくれたのが、非常にありがたかったと思っています。

オリンピックも残念なことになっていますけども、こういう大会を通して、本道の子どもたちが、スポーツに触れる機会ですか、それ以外の大人の方々も、子どもたち、高校生の触れ合いを見て、スポーツがいいなと思えるような、そういう環境を作っていく上では、こういう大会は大事なのだなという気はしておりました。

あと、今年度も、7月末から4月にかけて、室蘭、伊達でインターハイの女子のサッカーだけを北海道でやることになっています。

それから、冬のインターハイを釧路市と名寄市で、来年の2月にやることになっています。引き続き、北海道で高校生のトップアスリートの大会が行われるということは、嬉しいことだと思っていますので、関係する皆様には、是非ご支援・ご協力をいただければと思っています。

特に、本州も暑い状況になってきたので、どうしても北海道でということ、それから冬のスポーツも去年は富山でスキー大会だったのですけども、雪がなくてできないのではないかということをぎりぎりまで言われたのですけども、そういう意味では、北海道というのは、スポーツする環境の上で、最高の、日本国内においては、良いところなのかなと思っていますので、ぜひこれを機に、また盛り上がりたいと考えているところでございます。

【生島会長】

ありがとうございます。私もバレーボールの関係で、旭川と釧路に行きましたけども、今、駒井委員がおっしゃったように、地元の生徒が大活躍する光景を見て、やっぱり大会運営の中で、出来上がってくるものもあるなと感じておりました。ありがとうございました。

先ほど、千葉委員からも触れられておられましたけども、オリンピックという目標、今、とりあえずは失っている中で、今年度の計画、あと、ウィンタースポーツということに関して、何かございますか。発言お願ひします。

【千葉委員】

ウィンタースポーツとしては、やはり、オリンピックを起爆剤に、また、北海道で特色あるスポーツ活動ということでは、特に雪が多かったり、寒かったりということで、ウィンタースポーツに非常に適している地域ですので、何とかそれでとは思っていたのですけれども、残念ながら、いろいろなことがあって、見えてこない状況となっております。

先ほど、駒井委員からインターハイのお話がありましたけども、私は、苫小牧なのですけれども、今年の2月に、国民スポーツ大会、旧国体ですね、今ちょっといろいろ、知事会の方でいろいろもめているような状況にはありますけども、国民スポーツ大会があって、苫小牧でスケート競技、4競技やったのですけども、フィギュアの方は、坂本選手が来てくれたりとかということで、非常に観客も多くて、こういうスポーツを「みる」とか、「ささえる」とかという部分では、国民スポーツ大会、旧国体も、良い取組だなと思ったところであります。

スキー競技も含めて、パラリンピックも含めてですけども、オリンピックがなくなって残念なところもあるのですけども、北海道としては、やはりオリンピックのある、なしに関わらず、特色ある取組ですので、何とか、先を見越して、次のオリンピック、さらに次のオリンピックということで、今のところ、非常に良い結果を出しているところですので、なおさら、地元で開催できないとしても、さらに、引き続き競技力の向上を図っていくべきなのか

なと思っております。

資料1-1でいくと、競技力の向上、それから、2番のところの特色を生かしたスポーツということでいくと、北海道の特色を生かして、是非、今後とも、全域で、北海道が皆、取り組んでいければいいのかなと思っております。

【生島会長】

はい。ありがとうございます。

熊耳さん、総合型地域スポーツクラブの促進ということで、項目も立っているのですが、何かご意見いただけますでしょうか。

【熊耳委員】

はい、ありがとうございます。北海道スポーツ協会でクラブアドバイザーをさせていただいております熊耳です。

総合型地域スポーツクラブに関しては、令和4年度から登録制度というものがスタートして、それに伴って、各都道府県もスポーツ協会の中に、中間支援的な組織である連絡協議会を組織するということが言われてスタートしているところです。

それに伴って、道庁の方から補助金という形でいただいておりまして、これを有効活用させていただいている、昨日一昨日も、道内の総合型クラブが集まる研修会を行ったのですけれども、その登録制度の背景には、やはり、たくさんできてきた総合型クラブが、より一層地域と連携して、地域の課題に根差した取り組みができるように、質を高めていくというところが大目的で言われているところですので、こういった助成を活用させていただきまして、今後も、クラブの質の向上というところに取り組んでいきたいと思っております。

また、私たちの取組に関しましても、道庁の方からいろいろとご指導いただきながら、より連携を深めた形で行なっていきたいと思っているところです。

【生島会長】

はい、ありがとうございます。

和田委員、どさんこ選手の競技力向上などについて、あとは、有望選手の発掘とございますけども、何かあればお願いします。

【和田委員】

はい。北海道バスケットボール協会の和田です。よろしくお願ひいたします。

バスケット関係でいうと、6月に、パリオリンピックの事前の強化合宿、強化試合ということで、男女ともオーストラリア代表を招致して強化試合が行われます。その中に北海道出身の選手もいて、そこも盛り上がりがあるのでないかなと思って期待しているところです。

きたえーるという会場がやはり、全国的にも招致しやすい会場ということで、少しでもそういう会場を利用して、トップチームの招致、そしてそこに、北海道出身選手がいるという状況をできるだけつくれるように、北海道協会でも、選手育成をしていたりとか、高校生であったり、大学生であったりというところの招致も含めてやって、少しでも触れ合える機会をつくっていければなと考えているところです。

前回の地域移行のこともあるって、なかなかアンダーカテゴリーがばたばたしている状況なのですけれども、何とか、そういう中で良い選手を発掘していくことと、育成をしっかりとやっていくという部分を、十分にこちらとしてもやっていきたいなと思っておりますので、是非協力していければなと思っております。

【生島会長】

はい、ありがとうございます。他の皆さん、いかがでしょうか。笠師委員どうでしょうか。

【笠師委員】

地域づくりの交付金のところで、相当高い金額が用意されていると。そこから見ますと、北海道らしさとか、北海道ならではというのは、計画の時にもやはり、なかなか、その具体的なところが見えないという話が出てきたのですが、今、委員の先生方からお話を伺うと、やはり、いろいろなところで北海道からの発信、北海道のスタイルを作るということをそれぞれのインターハイであったり、スケート連盟であったり、それからサッカーであったり、それから、クラブの関係など、これから注力していかなければならないところなのかなと改めて考えました。

【生島会長】

ありがとうございます。

寒川委員。何かありましたら。

【寒川委員】

はい、ありがとうございます。私からお聞きしてもよろしいでしょうか。駒井委員にお聞きしたたかったのですけれども、昨年の北海道のインターハイは、大きなイベントであったと思いますし、きたえーるに行っても、すごく勢いのある、「みる・ささえる」という部分に大きな影響があるのだなと感じて見ておりました。

オリンピックもそうなのですが、レガシーという感じで、子ども達にとって、これからどういう活動をされたいとか、企画等あるのでしょうか。

【駒井委員】

今回、「する」のではなく、「ささえる」方の子ども達が、非常に各会場で頑張ってくれていたりだとか、それから、高校総体のために、高校生が何年もかけて、イベントを盛り上げるために、別組織である高校生活動委員会を作つて一所懸命頑張っていたりだとか、そういう、子ども達が「スポーツをささえる」というものに関わってくれたっていうこと、直接これだけ大きな大会ですね、目の前で高校生のトップアスリートを見ることができた、そういうことは、モノの形ではないのですけれども、それを目の当たりにしてくれたら、レガシーだと思っております。

うちの生徒が、総合開会式で、秋篠宮両殿下がいる前で、各都道府県のプラカードを持って入場しました。聞いてみると、非常に、高校時代の良い思い出になった、良い経験になった。それから、うちの吹奏楽部も総合開会式に演奏したのですけれども、秋篠宮両殿下とお話をさせていただく機会があつたり、普段、まず、関わることができない経験ができたということが非常に大きな自信になっているようですので、形としてモノを残したとかではなくて、そういう子ども達が多く北海道にいるということは、今後、スポーツに興味・関心を持ってくれる子ども、「ささえる」子どもが増えてくるのではないかと私は信じているところです。

【生島会長】

今の関係で事務局から何かコメントありますか。

【事務局】

委員の皆様、貴重なご意見ありがとうございます。インターハイの話もございました。スポーツ局といたしましても、「する・みる」だけではなく、「ささえる」を含めて、総合的にスポーツ施策を推進しているところでございまして、去年のインターハイにつきましては、道の教育庁の方と、私共の方で運営の一部を携わらしていただいたということで、確かに、高校生の皆様の影の支えがあってこそこの大会であったのかなというのは、事務局としても感じたところでございました。

それから千葉委員からの発言がありましたウインターランススポーツの件でございますが、確かに、オリンピック・パラリンピックがなくなつても、ある、なしに関わらず、というご意見でございました。これも、ある、なしに関わらず、どさんこ選手の国際競技力の維持・向上というのは、大事な目標だと思っておりますので、そこにつきましては、今年度新たに競技力向上という部門も設置いたしましたので、力を入れていかなければならぬかなという認識でございます。

【生島会長】

はい。ありがとうございます。

佐川委員お願いします。

【佐川委員】

今年度から参加させていただいているので、昨年までの話がちょっとよくわからぬ部分もありますので、話としてはずれるかもしれません、私どもの札幌のスポーツ推進委員の方ではですね、委員自体としての年齢は結構上がってきてはいるのですけれども、こういったスポーツの「する・みる・ささえる」ということでは、将来有望な小学生ですか、低学年のお子様をまず中心に育てていくということになりました、私の所属しております厚別の方では、委員自体の若返りを図らせて、大学生を入れていただき、いろいろな意見をお聞きしながら、小さなお子様のこれから将来につきまして、どういった形を持っていくのが良いのかということ、新しい風を吹かせて、「する・みる」を支えられる事業ができればいいかなと考えております。

ですので、これから、北海道は、先ほどの気候の話もありましたけれども、やはり本州に比べて、過ごしやすくて気候のいい場所でもあると思いますので、そういった形も含めまして、どんどん、どさんこ選手を育てられたらいいかなと考えております。以上です。

【生島会長】

はい、ありがとうございます。

それでは報告事項1について、他にご質問、ご意見ございますでしょうか。

よろしいですか。それでは、報告事項2に移らせていただきます。

事務局から説明お願いします。

2 主な取組について

【事務局】

4月からスポーツ振興課で、障がい者スポーツと競技力向上を担当しております中村です。

資料2でございますけれども、資料には、令和6年度の障がい者スポーツに関する主な取組といたしまして、4つの事業をお示ししております。

一つ目は、「北海道パラアスリート発掘プロジェクト」といたしまして、道内の障がい者スポーツの選手を発掘するとともに、障がいのある方々がスポーツに親しめる環境づくりを進める事業を行っております。大学や競技団体と連携をいたしまして、道内における障がい者スポーツの選手層を広げ、将来的に活躍できるパラアスリートを発掘する測定会と、日常的にスポーツに親しみたいと考えている障がいのある方々を対象としたパラスポーツの

体験会を開催いたします。

現在、6月の末に、札幌国際大学で実施するように準備を進めているところでございます。

二つ目は、障がいのある方々と健常者の交流を通じた理解促進と支援の輪の拡大を図るため、「北海道みらい運動会」を実施いたします。

今回で第3回目となります、1回目が北広島、2回目が札幌と、道央圏で開催してきましたけれども、今回から地方展開をすることとしておりまして、10月に函館市が開催する行事に合わせまして、実施をする予定しております。

次、三つ目が、障がいの有無に関わらず、誰もが気軽に楽しめるボッチャの大会「北海道ボッチャフェス」になります。

ボッチャは障がい者スポーツを知るきっかけとして、とても啓発効果が高いと考えております。今回は、さらに多くの方々に知ってもらいたいということで、なるべく人目に触れる場所を選んで、大会と体験会を実施してみようかなと考えているところです。

開催時期につきましては、今のところ12月上旬を予定しております。なお、こちらの大会で優勝いたしますと、ボッチャの全国大会に出場できるということになってございます。

最後に、四つ目は、北海道の地域特性を生かして、冬季のパラスポーツの体験を通じて、障がい者スポーツへの理解とすそ野を広げることを目的に実施いたします、「北海道インクラーシブパーク」です。

こちらは令和5年度、前回の審議会の後に開催したということで、資料を用意してございます。資料の裏面をご覧いただきたいと思います。

この事業はスポーツ庁の委託事業の採択を受けて実施したものになります。令和5年度は、札幌と旭川の2ヶ所で開催いたしまして、シットスキーや雪中ボッチャ、ピクルスストーンカーリングを体験していただいております。

掲載している写真には、出展ブースの写真もありますけれども、様々な企業の支援や協力をいただいて実施をいたしたところでございます。

簡単でございますが、障がい者スポーツの取組につきまして説明をさせていただきました。

今年はパリでパラリンピックがありますし、来年は東京でデフリンピックが開催されます。障がい者スポーツへの関心が高くなるのではないかと思っておりますので、その機を逃がさず、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。

また、今回説明いたしませんでしたけれども、「北海道タレントアスリート発掘・育成事業」など、競技力向上につきましても、引き続き取り組んでまいりたいと思っております。

私からの説明は以上になります。

【生島会長】

はい、ありがとうございました。それでは、武田委員お願いします。

【武田委員】

様々な取組をしていただきましてありがとうございます。

第3期北海道スポーツ推進計画、こちらの方を見ますと、「障がい者スポーツを行うことができる施設や場の拡大を図る。」、「スポーツ施設のバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入等を含め、障がい者を含め誰もが利用しやすい施設の充実を図る。」とありますけれども、事務局の話で質問させていただきたいんですが、このあたりの進捗状況というのはどのようにになってますでしょうか。

【事務局】

現在、まだ北海道として、障がい者スポーツセンターの設置といったことについての具体的な取組というのは、進んでおりません。また、国の検討状況が進んでいるところでございますので、そちらの方を注視して参りたいというふうに考えているところでございます。

また、札幌市の方でも、センターの機能等について検討もされているということを聞いておりますので、そちらの方の状況も伺いながら、検討してまいりたいというところでございます。

【武田委員】

ありがとうございます。札幌市では検討されているということで、私の方からもですね、昨年、日本パラスポーツ協会が主催しております北海道ブロック連絡協議会において、当時の担当主幹に同じ質問をさせていただいたのですけども、その時に回答としていただいたのが、そういうセンターのような箱物を設置するには、やはり大きな予算が必要だと、急には実現できない。全くその通りだと思うのですけども、また、そもそもこの広域な北海道のどこにそれを設置するのかという問題もあるかと思うのですね。

それに対して当面、道としては、体制を整備する、要するに、ハードウェアでなくソフトウェアで対応していくというような回答をいただいて、これについては、私も理解できるものとして、昨年の第2回の審議会の時には、それに沿う形で、これに軽く触れさせていただいております。

いくつか実際の現場での事例を紹介させていただきたいと思うのですけども、ある体育施設に行ったところ、車いすのタイヤで床が汚れるので、拭いてから入ってほしい。

ぱっと聞くと当然の話だと思うんですね。施設側が言うには、それにあたって雑巾は用意して来てくれと。濡れたもので、しっかり拭いてほしいということを言われてるんですね。で、この雑巾を持参して、どこで絞るのかとか、車椅子で来た方が。これは、介助者がいることが前提になったところでの話であると思うのですけども、車いす使用者のみで来た場合に、その雑巾をどこで絞るのだということになるかと思うのですよね。

また、そこの施設は、一般の利用者とは全く異なる動線の場所に、スロープが設置されて

いまして、そのスロープの利用は、車椅子使用者に限定してほしいと、皆でそこをぞろぞろ行かれては困ると、一つの団体で来ても、異なる動線を通って行ってくれてというようなことを言われました。

これが施設側のルールなら、従わざるを得ないですけども、私の思うところでは、障害者差別解消法でいうところの不当な差別にも当たりかねないと感じています。

こういったところは、ごく一例で、なかなか、そういった部分の理解が進みづらい状況だと感じております。こういう対応をされている方々にとって、全く悪意はなくて、きっと知らないだけということがあると思うんですね。知らないだけにしても、そういった施設が、先ほど推進計画にあった、利用しやすい施設であるのかどうか、といったところも非常に気になるところだと思います。実際に、道内の施設でそういったことが起きています。

スポーツ推進計画を鑑みれば、直ちに改善すべきところかなと感じております。

こういうことを考えるにあたって、施設側に必要なことっていうのはスロープではなくて、きっと、ホスピタリティではないかと思うんですね。

海外遠征を経験しているパラアスリートの多くが日本と海外の違いについて、そういったところを挙げております。ホスピタリティというのは、まさにソフトウェアの問題で、直ちに出来ることではないのかなと思います。

すいません、急なのですけども、資料をお配りしてもよろしいでしょうか。

皆さんにご覧いただきたい資料があります。

（「障害者スポーツ振興方策に関する検討チーム 報告書概要（高橋プラン）を配付）

今、お配りした資料ですけども、これは、前北海道知事であります、高橋はるみ文部科学大臣政務官を座長としました検討チームによる報告書で、通称「高橋プラン」と呼ばれているもので、ご存知の方も多いかと思いますけども、この資料の「具体的な方策」とあるところの「(1) 障害者スポーツの普及」のところに、「都道府県等による障害者スポーツセンターの整備を促す。」と非常に強く謳われています。

先ほども申し上げましたけども、やはり新設するとなると、莫大な予算がかかって、すぐに実現するものではないので、新設ではなく既存の施設で、そういった機能をしっかりと持たせるところから始めるのがいいのではないかと私も感じております。

またそこはしっかりと、ホスピタリティを備えている。

また、道内各地にある体育施設の職員にそういったことを研修してもらうような仕組みを持たせるということが、北海道のような土地柄だと、非常に有効になるのではないかと感じております。

直ちに、これについて検討を何卒、進めていただけますようお願いを申し上げます。

高橋プランの最後のところに、「特別支援学校等の運動部活動の円滑な地域移行」ということも謳われております。なかなか、いろいろと考えると、難しいところがあると思うので

すけども、これは、私ども障がい者スポーツの領域だけで頑張っても、実現は到底できるものではないと感じています。

まさしく、道のイベントの中にもある「インクルーシブスポーツ」、こういう環境が必要ではないかと思います。

「インクルーシブパーク」というのも、まさしくそうなのですけども、インクルーシブスポーツを謳ったものが、このイベントの中に幾つかありますけども、是非、これについてですね、イベントをイベントとして終わらせるのではなく、日常のスポーツに繋がっていく、日常のスポーツと捉えた施策として、今後、継続していただくことをお願いしたいと考えております。

また、インクルーシブスポーツの意味するところですね、これが何であるのかというのを、また、それをどう実現させていくのか、ということを本日いらっしゃる各委員の皆様方と一緒に、道の担当者とも一緒に考えていきたい問題であると感じております。

それと、先ほどの資料1の中で、「全国障害者スポーツ大会派遣事業」というものがありましたけども、国スポの後に開催されている障がい者スポーツ大会なのですが、各都道府県、政令市が選手団を派遣しています。

その出場枠というのが、身体障害者手帳ですか療育手帳の発行数で決められているのですね。北海道は、東京都と大阪府に次いで3番目の規模がある。つまり、それだけの対象者がいる、潜在的なニーズがある、と私たちは考えています。

また、北海道は非常に広い面積を有しているというところで、こういう地域における普及をどのように考えていくのか、また、普及とは何なのか、やはり、イベントに来て、スポーツをやったではなく、それぞれが日常的にスポーツをやって、こういう大会を目指すような、そういったところをしっかりとやっていかないと、障がい者スポーツにおける競技力向上ということには当たらないのかなと感じます。

ここは特に、障害者スポーツは今、一般のスポーツでも少子化の影響等でいろいろ普及が難しくなってきているところもあるかと思うのですけども、母数を考えたときに難しくなっている、北海道の広域さが、それをさらに難しくしているというところがあると思います。

私ども、これについてはですね、継続して努力していきたいとは感じておりますけれども、何卒、各委員の皆様、また、道の担当者の方でも考えていただき、取り組んでいただきたいと感じております。長くなりました。以上です。

【生島会長】

はい、ありがとうございました。

私も今、武田委員からお話をありました、お互いの理解を深めるという意味で、今回資料2で提出をされております、2番目と3番目の事業の「障がい者と健常者の交流を通じた理解促進と支援の輪の拡大」、それと「障がいの有無にかかわらず誰もが気軽に楽しめるボッチャ大会」などと、障がい者の大会だけではない、または、健常者の大会だけではない、こ

ういう垣根を越えたものが増えていくと、すごく理解は進むのではないかという気がいたしました。

他の皆さんからも障がい者スポーツについて、何かご意見ございますでしょうか。

【笠師委員】

私もパラスポーツのサポートをやっていますので、武田委員の意見に追加なのですけれども、先ほどのインクルーシブパークのところで、令和5年度の事業として、スポーツ庁の委託事業が当たったと思うのですが、これは先ほどもお話ありましたけれども、今後、これも継承するという方向性にはないのかというのが1点。

それともう1点は、10件採択されていると思うのですが、後ほどで結構なのですが、私は、他の9件のことを存じていないので、可能であれば、委員向けに資料を送ってもらいたいと思いますので、以上の2件よろしくお願ひいたします。

【事務局】

インクルーシブパークなのですけれども、今年度も予算を要求しております、先般、スポーツ庁に申請をした段階ということで、また決定は受けてはいないものです。

昨年の10件につきましては、手持ちでございませんので、後ほど、事務局から情報提供させていただきたいと思います。

【笠師委員】

ありがとうございます。申請されたということで、少し前向きになるのかなと思うのですが、是非、事業として自走できるような形を北海道の企画の中に入れていただくと、採択されないと、それで終わってしまうということになるので、そこも検討していただきたいなと思います。よろしくお願ひいたします。以上です。

【武田委員】

北海道インクルーシブパークの「来場者数」のところを見ると、結構な人が参加していただいていると思うのですけれども、この中で、障がい者がどれくらいであったかというような資料はございますでしょうか。

【事務局】

細かな数字は、手持ちがないのですけれども、大体5パーセントくらい、障がい者の方の参加があったと考えております。

【武田委員】

ありがとうございます。是非、障がい者の参加率向上にも努めていただいて、よりよいイベントにしていただければと思います。以上です。

【熊耳委員】

いろいろな取組がされているのだなということで、すごく興味深くお話を伺っていたのですけれども、3つ目の、北海道ボッチャフェスなのですが、どこで開催で、この周知というのが、どういったところまでされるのかということをお聞きしたいのですけれども。

【事務局】

開催につきましては、札幌で開催をしようと考えております。先ほど、説明の中で人目につきやすいところということでお話させていただきましたけれども、体育館ですとか、そういったところではなく、人通りのあるところと、今のところは考えております。

条件が整いましたら、周知を行ってまいりたいとは思っておりますが、周知の仕方については、事前に参加者を募集するチラシ配布などは、するように考えてございます。

【熊耳委員】

はい、ありがとうございます。私は、基本的に一道民として、こちらに参加させていただいているのですけれども、どうしても仕事柄、総合型クラブに関わっているものですから、今クラブで、ボッチャをかなり取り組んでいるところが多いのですよね。

会場が札幌というのは、そうなるのかなとは思うのですけども、もともと、私も羅臼の方でずっとクラブをやっていたもので、こうやってせっかく全国に繋がるような大会があるのであれば、是非、本当に、広く道民の人に参加いただけるように、やっぱり、そういうふうに取り組んでいるクラブにも知れるような形で、是非周知いただると、そういったところでも連携が図れるのかなと思いますし、また、起爆剤にもなったりするのかなと思ったものです。ありがとうございました。

【生島会長】

はい、ありがとうございました。よろしいでしょうか。それでは、以上で報告事項の方は終了させていただきます。

これから審議事項に入りますが、傍聴者の方もおりませんので、このまま進めさせていただきます。

(審議事項については非公開)

【生島会長】

予定しておりました審議は以上でございますけれども、全体を通しまして、委員の皆様から何かございますでしょうか。よろしいですか。それでは事務局へ進行をお返しいたします。

【事務局（松井スポーツ振興課長）】

生島会長ありがとうございました。本日、審議いただきました議題のうち、審議事項1の「文部科学大臣表彰」の選考につきましては、本日の審議を踏まえまして、知事から文部科学大臣に推薦の後、概ね9月中旬頃に表彰者が決定される予定でございます。

決定まで候補者氏名等の取り扱いにご留意願いだと思います。

審議事項2の「北海道スポーツ賞候補者」の選考につきましては、本日は審議を踏まえまして、知事が決定いたします。

表彰式につきましては、日程調整の上、後日ご連絡したいと考えております。事務局いたしましては、秋頃で調整をしたいと考えております。

こちらも決定まで、候補者氏名等の取り扱いにご留意いただければと思います。

審議事項3の「北海道スポーツ奨励賞候補者」の選考につきましては、本日の審議を踏まえ、環境生活部長が決定することになります。

決定までの間、候補者氏名等の取り扱い、ご了承いただきたいと思います。

また、選考経過等については部外秘でございますので、本日お配りいたしました資料3、4及び5につきましては、回収させていただきたいと存じますので、そのまま机の上に置いていただきますよう、よろしくお願ひいたします。

その他の資料は、お持ち帰りいただいて結構でございます。

それでは以上をもちまして、令和6年度第1回北海道スポーツ推進審議会を終了いたします。本日はありがとうございました。